

<p>第 5-7 回 (2018.5.8 2018.5.15, 2018.5.22)</p>	<p>『情報の組織化と検索：理論と実際』 黒橋禎夫教授(情報学研究科)</p>
<p>【第 5 回 講義】 2018/5/8(火) 4 限</p>	
<p>場所 出席者 配布資料 作成物</p>	<p>学術情報メディアセンター南館 303 19 名 講義資料、日本十進分類法(NDC)9 版第 2 次区分表(綱目表) KULINE ミニ演習課題、および解答 予習ビデオ(約 6 分)(作成：黒橋先生)</p>
<p><予習ビデオ></p>	
<p>掲載タイトル：「【第 5 回】「情報の組織化と検索：理論と実際」予習ビデオ」(5/1 公開) 視聴回数：52 回 (2018/6/6 現在) 内容：・情報の分類と組織化 ・分類の演習：授業までに各自で 14 個の単語を分類してみる ・動植物の分類 ・情報検索(文書検索) *授業の前週(第 4 回授業)に、予習ビデオを見て授業内容を予習してくるよう案内した。</p>	
<p><講義 前半> (黒橋先生)</p>	
<p>導 入：自然言語処理(言葉とコンピュータ)、End-to-End Learning/System 情報の分類と組織化：「分類は知のはじまり」物事を体系化することで全体を把握 LATCH(5 つの整理棚： Location, Alphabet, Time, Category, Hierarchy) 分類の演習：予習ビデオで示した 14 個の単語の分類 →(解答)階層構造を持つ 「分類は、視点・観点によって異なる」 分類の諸問題：ウィトゲンシュタインの家族的類似性 言葉、文化との関係、オーバーゾーニング 動植物の分類：アリストテレス/人為分類、リンネ/階層的カテゴリ、アダンソン/類型分類、 ラマルク/系統分類 数量分類学：特徴ベクトル(属性の束)で個体を表現→類似度をもとにクラスター分析 図書の分類：図書館の歴史の変遷とともに体系的な分類が行われるようになった。 書架分類・書誌分類。 十進分類法(デューイ、国際、日本)、コロン分類法(主題+ファセット)</p>	
<p><KULINE ミニ演習(10 分)> (演習補助者)</p>	
<p>KULINE を検索し、NDC 分類番号および第 2 次区分を確認する</p>	
<p><講義 後半> (黒橋先生)</p>	
<p>ことばの分類：シソーラス(語の上位下位、同義関係などを体系的に整理。分野の学問体系を明らかにする) 情報検索：テキストの特徴ベクトル表現→類似度計算により文書検索 検索エンジン/クローラーが収集した文書を全文検索。 精度向上のため PageRank やアンカーテキストを利用。 情報推薦：特徴ベクトル・行列→ユーザ間の類似度計算 フォークソノミー：共同作業による分類。ウェブ上の情報へのタグ付け。 ソーシャルブックマーク、写真・動画共有サイト</p>	

【第6回 演習1】 2018/5/15(火) 4限

場所	学術情報メディアセンター南館 303
出席者	20名
目的	分類を活用した資料探索について学ぶ。また、フォークソノミーの実習を通して、既存の分類体系による情報探索との比較や情報組織化について考える。
配布資料	演習課題 A・B 説明資料、演習課題 A・B 問題用紙 次週の事前課題(課題 C-1)問題・解答用紙
演習ページへの掲載	演習課題 A・B、PandA 課題提出方法資料
準備物	サインペン(人数分)・付箋・磁石・A3用紙

<講義+演習> (演習補助者)

時間配分：	14:45-15:10	分類を活用した資料検索(NDC)
	15:10-15:30	課題 A 解答
	15:30-15:40	フォークソノミーについて
	15:40-15:45	課題 B-1 付箋にタグを書き出す(個人)
	15:45-15:55	課題 B-2 2-3人で B-1 を A3用紙にまとめる(グループ)
	15:55-16:05	課題 B-2 成果物の回覧、講評(先生より一言コメント)
	16:05-16:10	課題 B-3 解答
	16:10-16:15	課題提出方法の説明、予習ビデオの案内、次回のアナウンス

課題提出：PandAの「課題」ツールから「【第6回】情報の組織化と検索(5/15)」を選択し、解答用紙(ワード形式)を提出する。提出期限は5/21(月)17時

■課題 A

下記3つのテーマから1つを選択し、以下の課題に答えてください。

○テーマ 1. 京都の祭りと文化 2. 難民の保護と政策 3. アメリカの政治と経済

A-1. 選択したテーマに関連するキーワードを2つ挙げてください。キーワードのどちらか、または両方を使って KULINE の詳細検索画面から検索し、それらをタイトルに含む図書を1冊選び、書名と NDC(日本十進分類法)の分類番号を答えてください。

A-2. KULINE の NDC 分類表をもとに、選択したテーマについて資料探索する際に有効と思われる NDC 分類番号3桁を考えられる限り複数挙げてください。

A-3. A-2.で挙げた NDC 分類番号3桁を用いて KULINE で分類検索を行い、書名に A-1.で挙げたキーワードを含まないが、各テーマについて調べるのに役立つと思う図書を1冊選んでください。

※必要に応じて、絞り込み検索を用いて件名などで目当ての図書を絞り込んでください。

A-4. 分類検索によって資料を探すことの利点と欠点を述べてください。

■課題 B

B-1. 京都大学ホームページ『探検！京都大学』に、閲覧者が増加するようなタグを考えてください。検索しやすさや内容の表現方法を工夫して、思いつく限り複数書き出してください。<http://www.kyoto-u.ac.jp/explore/>

B-2. 近くの2～3人でグループを作り、書き出したタグを持ち寄って、タグの傾向や選んだ理由、工夫点等についてまとめてください。

B-3. フォークソノミーの特徴・利点・欠点について、図書分類法やカテゴリ検索のような、既存の分類体系に基づく情報検索と比較して考察してください。

*授業の終わりに、次週の事前課題(C-1)と予習ビデオを見て内容を予習するように案内した。

*課題 B-2(グループワーク)について

- ・ 座席の近い者同士2~3人ずつでグループを作り、8つのグループに分かれて作業を行った。課題 B-1 で個人が考案したタグを持ち寄り、分類やタグの傾向を考察して A3 用紙にまとめた。
- ・ まとめたものは、演習室備え付けのホワイトボードに貼り出し、全体で共有し、他班の成果物を見てフォークソノミーの多様性や非統制性を確認してもらった。
- ・ サインペンは図書館企画課の備品を借用し、その他必要なものは担当で持ち寄った。

【第7回 演習2】 2018/5/22(火)

場所	附属図書館ラーニング・commons
出席者	18名
目的	テーマが各分類体系(NDC, NDLC)でどのように位置づけられているか、実習を通して比較するとともに、資料探索における分類の活用について考察を深める。
配布資料	課題C 説明資料、個人ワーク(課題C-4)問題・解答用紙、アンケート⇒個人に1部 グループワーク(課題C-2、C-3)問題・解答用紙、分類表の抜粋⇒グループに1部
準備物	NDC、NDLCの冊子(2セット)、ホワイトボード、PowerPoint 投影用ノートパソコン、三角柱(グループワークの班分け用) ※当日の朝に、ラーニング・commonsのホワイトボード・座席確保を行った。
作成物	予習ビデオ(約5分)(作成：演習補助者)

<予習ビデオ>

掲載タイトル：「第7回「情報の組織化と検索：理論と実際」予習ビデオ&宿題」(5/15公開)

視聴回数：41回(2018/6/6現在)

内容：・第5、6回の復習、日本十進分類法(NDC)について

- ・ 国立国会図書館分類表(NDLC)とは
- ・ 分類表の見方
- ・ 分類を活用した資料探索

<講義+演習> (演習補助者)

時間配分：	14:45-14:55	NDLC について・課題説明
	14:55-15:15	課題C-2 ブラウジング (グループ)

15:15-15:35	課題 C-3 比較・検討まとめ（グループ）+発表準備
15:35-15:55	グループ発表
15:55-16:00	講評(コメント)
16:00-16:10	課題 C-4 解答（個人） +アンケート記入
16:10-16:15	次回授業の案内、解答用紙提出

課題提出：授業時間内に解答用紙に記入して提出

■課題 C

<事前課題(宿題)>

C-1. 選択したテーマについて調べるのに有効と思われる NDLC(国立国会図書館分類表)の分類番号を考えられる限り挙げてください。

※分類番号は解答例を参考に、「アルファベット+数字」で答えてください。ただし、数字の区分に当てはまるものが無ければ、アルファベットだけでも構いません。

<演習(グループワーク)>

C-2. C-1 で挙げた NDLC 分類番号の中で特に有効と思われるものをいくつか選び、その分類番号の棚をブラウジングし、役立ちそうな図書をグループで3冊選んでください。

C-3. NDLC と NDC(日本十進分類法)を見比べて、選択したテーマにおけるそれぞれの分類体系の特徴等を比較してまとめてください。

(ポイント)・テーマの分類番号の前後やその周辺にはどのようなものが分類されているか

・分類全体を見て、選択したテーマ(分野)はどの位置づけられているか

・テーマ(分野)の探しやすさ

<個人ワーク>

C-4. グループワーク時の意見や他グループの発表を参考にして、資料探索における図書分類法の活用の意義と留意点について、ブラウジングの効果にも触れて、自身の意見を簡潔にまとめてください。

*演習(グループワーク)について

- ・第6回(5/15)の課題 A で選択したテーマごとに6つのグループ(京都4、難民1、アメリカ1)に分かれて演習を行った。グループワークは受講生同士の自主的な話し合いを中心とし、補助者は巡回して、適宜演習が円滑に進められるように質問対応や補足説明を行った。
- ・課題 C-2、C-3 に取り組んだ後、C-3 についてまとめた意見を発表した。発表時間は各グループ3分程度。
- ・意見交換や発表用にラーニング・コモンズ備え付けのホワイトボードをグループに1台ずつ用意した。発表時には、補助者が壁面ホワイトボードに各グループの発表内容の要点を書き出し、個人課題 C-4 の際に共有・参照できるようにした。
- ・資料として、NDC・NDLC の各テーマ周辺部分のコピーをグループに1部ずつ配布した。その他に冊子を2部(資料整備掛から1部、1階書架から1部)ずつ会場内に用意し、配布した範囲以外の分類表を確認するのに使用した。

【まとめ・反省点】

○予習ビデオ

- ・アンケート結果によると、各回 14 名程度が閲覧して予習していた。
- ・授業アンケートに予習ビデオの音声に関して指摘があった。来年度は内容の更新を検討するとともに、音声の更新についても検討したい。

○課題 A・B(5/15)

- ・前方のスクリーンにブラウザを投影する際、元の設定のままでは文字が小さく見えづらいためパソコンの文字の倍率をあげた。
- ・昨年度まで課題 B でソーシャルブックマークツール「はてなブックマーク」を使用していたが、最近のはてなブックマークの利用状況を鑑み、課題 B の内容を変更した。具体的には、はてなブックマークの使用を止め、仮想的にウェブサイトにタグ付け（付箋に書き出し）し、他者の考案したタグをまとめて比較・考察することでフォークソノミーを体験する課題とした。昨年度までははてなブックマークの登録や操作に割いていた時間をより考察の時間に充てることのできた。
- ・個人ワークのタグの書き出しでは、例(#京大・#京都大学)を示したためか、スムーズにタグの書き出しが行われていた。
- ・グループワーク時に、班によってはタグを書き出して集めただけで、手が止まっているところがあった。どのように深めればよいかわからなかったようなので、来年度は、まとめの例をはじめに見せる等の工夫が必要だと思われる。
- ・課題 B-2 でまとめた結果をホワイトボードに貼りだした際、スペースが狭く見にくかったためか、見に行かない学生などが見受けられた。今回は、班ごとの写真を撮り、後日 PandA にアップロードする等の工夫を行ったが、来年度は回覧の仕方自体を検討する必要がある。
- ・回覧後に先生方にコメントをもらったが、先生方に学生達のまとめたものを見てもらう時間がほとんどとれなかったため、コメントの時間を最後に持つてくるなどの工夫が必要である。

○課題 C(5/22)

- ・会場はラーニング・コモンズの一部スペースを使用した。開館日のため、ラーニング・コモンズ内には他にも多数の利用者がいたので、少し騒がしい印象であった。マイクを使用したか、タイミングによっては聞き取りにくいこともあった。グループワークのしやすさや、学生にラーニング・コモンズの間を知ってもらう点では意義があった。
- ・グループワークの際、補助者が 2 階書架とラーニング・コモンズに分かれることになるため、事前に配置を決める必要がある。
- ・課題 C-2 のブラウジングの課題において、KULINE の使用可否について決めていなかった。今回は使用している学生はいなかったが、KULINE の分類検索との違いを意識してもらうためにも、KULINE の使用可否についてあらかじめ検討しておく必要がある。また、選んだ本をラーニング・コモンズに持って帰るか否かを迷っている学生も見受けられたため、問題文に持ち帰る旨を記載する等の工夫が必要かと思われる。
- ・宿題(C-1)を忘れた受講者が 3 名いた。当日、授業終了時までには回答するよう指示して解答用紙を配付、時間内に提出された。

○その他

- ・ 演習補助者間のファイルの共有方法として分類チーム内は、KUMail ストレージの共有フォルダを使ったが、「資料の入り口」「総合演習」チームは PandA を使用しているとのことなので、分類チームも今年資料一式を PandA に残し、全体資料を次年度担当者うまく引継げるようにしたい。
- ・ 全チーム間でアンケートの書式を統一しているが、配布資料についても、統一感を持たせるため、図書館職員が担当する授業で使用する書式のレイアウト統一を提案したい。

(文責：若狭)